

平成30年度

研修集録



秋田県立羽後高等学校

目 次

巻頭言

「ユニバーサルデザイン」 校長 小西 あけみ

目 次

1 校内研究授業

第1回校内授業研究会

国語科 小松 拓史

家庭科 富谷 朋子

分科会の記録

全体会の記録

2 高等学校教職5年経験者研修講座

家庭科 富谷 朋子

3 職員研修会 議事録

4 高等学校教育研究会 参加報告

国語科 富樫 昌子

数学科 小野寺 裕美子

英語科 佐藤 寿子

5 第33回秋田県教育研究発表会 参加報告

家庭科 富谷 朋子

6 うごまち未来の学校と地域イベント 阿部大輔

「ユニバーサルデザイン」

校長 小西 あけみ

「ユニバーサルデザイン」とは、年齢、性別、障がいの有無等を問わず、あらゆる人々が利用しやすいようにあらかじめ設計することを意味する。「障害」は「害」がある場合に使用するの「害」が無い場合には、あえてひらがなを使用するようになっている。アクティブラーニング、カリキュラムマネジメントをする上でも、この考え方を授業に当てはめて、授業でのバリアを除く工夫、どの生徒にも「あると便利」な工夫をしていくことは大切である。

授業でのバリアを除く工夫として

1. 活動する内容としては、

①失敗を笑わないようなクラスの雰囲気をつくる。

②意見を言うとき、聞くときなどの基本的なルールを決めて、安心して参加できるようにする。

③教室内の掲示物や教室外の音など妨害刺激を調整し、整理整頓する。

④時間を見えるように示し、見通しを持たせ、行動をコントロールしやすくさせる。2. 授業をよりよく理解出来るようにするためには、

①授業を「シンプル」にする。（焦点化）

②授業の展開を論理的な構造に工夫する。（展開の構造化）

③指導目標の達成に向けて、そのステップを細かくする。（スモールステップ化） ④見えないものを「見える化」し、生徒のイメージを湧きやすくする。（視覚化）

⑤作業をさせることで理解を深めさせる。（身体性の活用（動作化/作業化）

⑥互いの考えを伝え合い、確認させる。理解に不安のある生徒には、自分の意見に足りない部分を補わせる

3. 授業で習得（身に付ける）させるためには、既習学習の復習を常に授業に入れ、再理解のチャンスや習得の深まりを確保する。（スパイラル化）

4. 授業内容を活用（使う）するために、

①習得したことを、状況が変わってもできるようにさせたり、応用が利くように導いたりする。（適用化）

②授業で学んだことを実用的に使用できるようにさせる。（機能化）

（授業のユニバーサルデザイン研究会・桂聖・石塚謙二・廣瀬由美子（2014）（2012）東洋館出版社より）

NHKTV 番組「ウワサの保護者会」での一コマ。「漢字にふりがながふられてないから、読めない。漢字にルビがあれば読める。」という児童。「黒板を写すのは苦手だが、パソコンで入力するのは得意。」テストの時には、パソコンに解答用紙を読み込ませ、パソコンで解答欄に答えを入力していく児童。児童の側で教師は不正がないか、パソコンの入力状態を確認している。この児童は、友人にノートを借りて帰宅後ノートの内容をパソコンに毎日入力。パソコンに入力するようになってからは、授業が理解出来るようになり成績も伸びた。

「なぜ出来ないんだ？」「なぜ失敗したんだ？」この言葉は、「（出来るべきなのに）なぜ出来ないんだ」「（失敗するべきでないのに）なぜ失敗したんだ」というように、言葉の裏に（言ってい

る本人にはその気がないにせよ) 相手を責める意味合いが含まれている。「なぜ」は否定的な言葉。相手を責める言葉。

中学生の時、数学の授業中に「教師は優秀な人間はならない方がいい。勉強ができない人、わからない人間の気持ちを理解出来る人が教師に向いている。」と聞いたことが印象に残っている。情報の免許を現職で取得した。三週間の研修期間。得意な分野は理解出来たが、他は全く理解不能だった。右耳から左の耳へ流れていくだけの講義内容。しかも毎時間の課題提出。提出出来ない恐ろしさ。恐ろしさはあきらめとなる。生徒の苦痛が理解出来た。わからない授業にも、毎日登校する生徒がりっぱに見えてきた、頑張っているな、よく毎日頑張って登校している、偉いよ、と。

我々教師は、常に原点に戻って「分かる」「できる」授業づくり、復習を授業に入れ、応用が利くように導き、肯定的な表現を心がけて生徒に接していく必要がある。

また、グローバル化の影響で母国語が日本語でない保護者が増えている。実態に即して配付資料にも、ユニバーサルデザインを取り入れた考え方が必要になってくる。